

学校 教育 目標	「つなぐ」 = ”自らの成長を自覚し、適切に行動できる 岡津っ子”			
	①教材と児童、児童と児童、児童の過去・現在・未来 ②学校、家庭、地域 「知」一人ひとりが学ぶ楽しさと創り出す喜びを通じて自分の学びを大切に、自主的に学び続ける子を育てます。 「体」心と体の健康を大切に、自分や人の生命を大切にする子を育てます。 「徳」他者を思いやり、規律を守って集団行動をしながら互いのよさを認め合う子を育てます。 「公」地域の人との関わりを通じて地域社会の活動を大切にしようとする子を育てます。 「開」様々な人とのコミュニケーションを通して自然や社会に目を向ける子を育てます。			
学校 概要	創立 98 周年	学校長 宮路 ますみ	副校長 加藤 純	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 4
児童生徒数: 557 人 主な関係校: 岡津中学校、上矢部小学校、緑園東小学校、緑園西小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自他理解力> <コミュニケーション力> <問題解決力>	岡津中学校 岡津小学校 上矢部小学校 緑園東小学校 緑園西小学校	主体的に自分の思いを表現していく子ども 教職員の理解のもと、二人一人の子ども心の居場所と役割のある学級づくりを取り組んでいます。また、小中交流を通して、子どもたちが安心して、期待感をもって中学校に進学できるようにします。

中期 取組 目標	自己有用感の育成と授業力の向上をめざします。 ~キャッチフレーズ『つなぐ×3』~ ① 児童と教材、児童と児童をつなぐ ☆ 授業の楽しさを実感できるように授業づくりを推進し、学力の向上を目指します。
	② 過去と未来の自分をつなぐ ☆ 子どもたちが自他の考えを認め合い、お互いを尊重しあう学年・学級経営に努めます。 ③ 教職員、保護者、地域をつなぐ ☆ 教職員チーム力の醸成と向上を目指し、学校運営組織の確立を推進します。

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当 児童支援部	①あいさつするよさに気づき、自ら進んであいさつができる習慣を身に付けるように継続的に行っていく。②ペア学年(1・6年、2・5年・3・4年)での活動を年間を通して行い、異学年同士のつながりを築き、それぞれの学年の立場を生かした活動を進めていく。
健やかな体 担当 総務部	①継続的な体力づくりのために「縄跳び」を取り上げ、一人一人の技の向上やチームでの長縄を通して体力の向上に励む。②地産地消を考え、総合的な学習の時間等を学んだり、泉区産の食材を使用した給食を取り入れたりする。
生きてはたらく知 担当 研究部	①子どもにとって身近な学習材を取り上げ、楽しく分かりやすい学習を実践し、子どもたちの学習意欲が高め、知識の定着を目指す。②学習問題の明確化を図り、子どもたちが自ら問題を追究・解決できるような指導を行う。
特別支援教育 担当 児童支援部	①児童養護施設の子どもの生育環境や資質・能力を全教職員で共通理解するとともに、施設職員とも連携を取りながら、生活・学習指導を進めていく。②教室にいる特別に配慮が必要な子どもの取り出し指導を充実させ、基礎・基本のつまづきを個別に解明し、学力向上につなげていく。
地域連携 担当 教務部	①創立100周年を機に、子どもたちの「ふるさと意識」を養い、自分たちのまちの良さに気付ける学習を進める。②まちとともに歩む学校づくり懇話会を活用し、地域・保護者との連携して、地域に子どもたちを見守る体制づくりを継続する。学校運営協議会の設置に向けて中学校ブロックで調整を進める。
学びに向かう態度 担当 研究部	①タブレット端末を利活用した授業づくりを通して、子ども一人ひとり(グループ)の考えを共有し、より多様な見方・考え方を表現できるようにする。②どの子どもでも分かりやすく理解できるように、生活や学習のユニバーサルデザイン化を進めるための、教室環境整備を行う。
幼保小連携 担当 総務部	①岡津幼稚園との連携を通して、児童・職員の交流を継続する。②スムーズな接続を目指して、スタートカリキュラムの編成・実践に取り組む。
SDGs 担当 国際協カクラブ	①国際協カクラブの活動を通して、世界に存在するさまざまな特徴・課題に焦点をあて、広く世界の現状を知り、考え、発信することを目的に活動をする。②岡津小学校や地域の伝統や文化を知り、継承し、地域の見つめ直しと発信で世界に広がる視点をもった子どもたちに育てていく。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①「いじめ0」の学校を継続するために、風通しのよい空間を構築し、子ども同士のコミュニケーションを大切にする。②学級の様子を学年研究会や職員会議及び「いじめ防止対策委員会」で情報共有するとともに、学校だけの情報共有にとどまらず、関係諸機関と連携して当たる。
人材育成・組織運営(働き方改革) 担当 教務部・メンター	①メンターチームを5年経験以下の教職員を中心に組織しメンター主任を中心に自分たちで研修を運営する。主に授業研究を中心に進めながら、ミドルリーダー等からの指導も受ける。②ミライムを活用して、情報の共有化を図るとともに、事務の簡素化・効率化を図る。